

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立諸富北小学校
児童数 219人	

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書館へ行こう！ 本との出会いを楽しもう！
	取組期間	令和7年(2025年)4月7日 ～ 令和7年(2025年)11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	219人	実施日数	238日	読書冊数	23316冊	連携した団体数	4団体
	取組内容（概要）		◆本への興味関心を広げる図書館環境の整備 ◆読書活動を充実させるための取組 ◆児童が主体的に取り組む図書委員会活動 ◆家庭や地域との連携した取組					
	工夫したこと		<p>◆本への興味関心を広げる図書館環境の整備</p> <p>①環境整備 本を分類番号順に配架し、一目でわかる表示を設置することで、本を探しやすく、整理しやすい環境を整えている。また、新刊図書コーナー、市立図書館の本コーナー、過去の課題図書コーナー等、児童の興味を引くコーナーを設置している。図書委員おすすめの本の紹介コーナーを図書室に設け、読書の幅を広げるための取組をしている。4月に諸富出身の真島智茂氏の記念文庫が新たに設置され、蔵書冊数も増加した。</p> <p>②掲示コーナーの充実 季節や学校行事に合わせた掲示を行い、明るく楽しい図書室づくりを行っている。佐賀市立図書館・諸富館のコーナーや読書に関する情報を紹介するコーナーを設置し、児童の読書の幅を広げるきっかけを作っている。今年度は「大阪万博」開催に関連付けたクイズコーナーや世界の国について知識を広げるコーナーを設置し、児童の興味関心を広げた。</p> <p>③読書ルームの設置 図書館に隣接している空き教室を活用して「読書ルーム」として整備した。静かに本を読んだり、「昼読み会」や「図書館祭り」のイベント等を行ったり、国語科の言語活動で図書資料を活用して完成させた作品を展示したりするなど、読書に関連する様々な活動を行う場所として活用している。</p> <p>◆読書活動を充実させるための取組</p> <p>①「読書ノート」を積極的に活用 年度初めに「読書ノート」の使い方を全校児童に紹介し、活用方法の共通理解を図った。読書ノートへの記入を図書の時間に設けたり、宿題で取り組んだり全学年積極的に活用している。1冊すべて記入した児童には表彰するシステムを導入し、児童の意欲向上を図っている。また、「読書ノートコーナー」を設け、児童が主体的に読書ノートの活用を楽しむことができるようにしている。2、3冊目に取り組み、読書ノートへの記入が習慣となっている児童も多く、お手本となる児童の読書ノートを掲示したことで、表現方法の工夫を高めたり、より質の高い読書ノート作りを目指したりすることに繋がっている。</p> <p>②「読書タイム」を設定 朝の帯活動として「読書タイム」を設定し、日常的に読書に取り組ませている。</p> <p>③家庭での読書時間を設定 週末の家庭学習や宿題を児童の発達段階に応じて工夫し、毎週家庭で読書する時間を設けることを習慣にし、取り組ませている。</p> <p>④読書活動の共通理解の徹底 全児童・職員が読書活動の共通理解をするために、年度初めに全学級でオリエンテーションを行ったり、職員に対して読書活動資料を作成し配布したりした。また、月に一度、児童の図書館利用状況一覧を全担任に配布し、読書指導に生かしている。今年度は2学期初めの給食時間にTeamsを活用して、全児童に向けて本校の読書活動について再度アナウンスしたり、「にじいろ50選」達成者や多読者、「読書ノート」達成者状況を伝えたりして、意識向上を図った。</p> <p>⑤学年ごとに読書年間目標を新たに設定 昨年度までは全学年一律で読書年間目標が100冊であったため、目標達成するために、すぐに読める絵本ばかりを選んだり、まだ読み終わっていないのに返却して次の本を借りたりする児童の姿が見られ、課題となっていた。特に高学年の児童にとっては、にじいろ50選の本も、ページ数が多かったり、本の内容が難しかったりするものもあり、負担が大きい目標設定となっていた。年度初めに昨年度の反省を生かして部会で検討し、今年度5・6年生は60冊、3・4年生は80冊、1・2年生は100冊とした。</p> <p>⑥「北っこにじいろ50選」 各学年の児童に読んでほしい本を「北っこにじいろ50選」として選び、読書を勧めている。10冊読み終わるごとに図書室でくじ引きができる仕組みにし、楽しみながら50冊を読み進められるようにした。「50選」の完読者は給食時の放送で紹介され、</p>					

	<p>校長から表彰されることになっている。今年度も「にじいろ５０選」を達成した児童を、図書室入り口近くの廊下に写真を貼り、児童の達成感と意欲を高めてきた。</p> <p>⑦「北っこどくしょの木」コーナー 図書室の壁面にコーナーを設置している。１００冊、２００冊、３００冊ごとの花や実がなる仕掛けになっていて、児童達の意欲付けとなっている。</p> <p>⑧長期休業中の図書館利用を促進 夏休み・冬休みには長期休業中の図書室の開館日が一目で分かり、読書記録を残すことができる「読書カレンダー」を配付し活用させている。</p> <p>⑨様々な集会で絵本を活用した講話を実施 「全校昼会」や「平和集会」等で絵本の読み聞かせや絵本を活用した講話を行った。取り扱った絵本は、図書館でも借りて読むことができるように、専用コーナーを設け、児童が絵本を身近に手にする環境を整えた。</p> <p>⑩図書館を活用した指導の充実 国語辞典・漢字辞典のクラス貸し出しを行い、学習活動に活用した。授業と連携した教科学習関連図書を積極的に活用し、学習を行った。</p> <p>◆児童が主体的に取り組む図書委員会活動</p> <p>①図書館祭り ６月と１１月に図書委員の児童が企画・運営する図書館まつりを実施した。 ・６月のイベント→スタンプカード、おりがみ教室、クイズ、おはなしオルゴールさんによる読み聞かせ、しおり作り、クロスワード、図書委員会による読み聞かせ ・１１月のイベント→スタンプカード、読書郵便、クイズ、工作（こま）、宝さがし、校長先生による読み聞かせ、しおり作り 等</p> <p>②児童集会 ９月の児童集会で全校児童に向けて、図書館利用のルールや楽しいイベント等の紹介をクイズ形式で行った。</p> <p>③おすすめの本の紹介 図書委員おすすめの本の紹介コーナーを図書室に設け、読書の幅を広げるための取り組みをしている。大変好評で、おすすめの本を借りる児童が多い。</p> <p>④校内放送 定期的にイベントの紹介や読書活動を啓発する内容の放送を給食時に行っている。</p> <p>◆家庭や地域との連携した取組</p> <p>①親子読書「ぼかぼか読書」を実施 月に一度、家庭で行うノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデーに合わせて親子読書「ぼかぼか読書」の取り組みを行っている。親子で本を読んだり、感想を伝え合ったりして、ワークシートに記入し交流を楽しんでいる。</p> <p>②読み聞かせボランティアによる読み聞かせ 年間を通して、定期的に読み聞かせボランティア「お話オルゴール」の方に読み聞かせに来ていただいている。毎月第１水曜日の朝の時間は全学級で読み聞かせ、毎月第４水曜日は、読書ルームでの「昼読み会」を実施していただいている。「昼読み会」への参加を促進するために、スタンプラリーを導入し、参加した回数によって景品がもらえる仕組みをとっている。</p> <p>③佐賀市立図書館・分館の諸富館とのコラボ企画 佐賀市立図書館・分館の諸富館と連携して、読書活動が充実するようにしている。年２回佐賀市立図書館から団体貸し出しをして、学校にない本の貸し出しを児童に行った。近くにある市立図書館分館の諸富館のイベントは、掲示板や放送等で積極的に紹介し参加を呼びかけた。今年度は「佐賀市電子図書館システム」の活用を推進するために、新たに『佐賀市電子図書館システム使用方法ガイド』を作成し、４～６年生に配布、指導を行った。さらに、新設された諸富公民館のこけら落としに合わせて、事前に諸富館の様子を全校児童に紹介したり、コラボ企画「図書館に行こう！」を実施したりした。コラボ企画では、図書館へ向かう廊下や図書館の中にイラストなどを隠して見つけるクイズを出す仕掛けを行ったことで、図書館に足を運ぶ児童が増加し、図書館がとても賑わった。新しい諸富館には「にじいろ５０選」コーナーも設けていただき、児童は学校の図書館だけでなく、地域の図書館でも良書を読む機会を広げることに繋がった。</p> <p>④諸富給食センターとの絵本コラボ給食 今年度初めて、コラボ給食を実現することができた。コラボ給食日に合わせて、事前にコラボ絵本コーナーを設置したり、クイズイベントを開催したりして、児童の興味関心を広げる工夫を行った。コラボ給食は児童達に大変好評で今後も継続していくことが決定した。</p> <p>⑤「図書館だより」「学校だより」等で読書活動を啓発 毎月発行している「図書館だより」で「にじいろ５０選」達成者や１００冊、２００冊達成者の紹介を行っている。保護者へ向けて、「諸富北小学力向上だより」「学校だより」「学級通信」等で、音読や読書が子ども達に与える良い効果等を情報発信し、読書活動の啓発を図っている。</p>
取り組んだ感想	<p>読書活動がマンネリ化している実態を踏まえ、今年度は改善すべき点を検討して変更したり、新しい様々なイベントを企画・実行したりしたことで、図書館を楽しい場所と感じ、読書することが日常の習慣となった児童を増やすことができた。地域との連携強化を目指した今年度の取組により、本校の図書館だけでなく、地域の図書館を利用する児童が増え、本との出会いの場も広げることができた。その結果、児童アンケートで「進んで読書をしている」と回答した児童は８８％、本の年間貸し出し冊数を達成している児童は９３％で昨年度より改善することができ効果を実感している。</p>
今後の取組予定 (令和７年(2025年)１２月 ～令和８年(2026年)３月)	<p>児童が「図書館に行きたい!」「新しい本に出会いたい!」と思えるよう、さらに読書活動の充実を目指して、継続した取組を行っていく。最終的には年度末に、図書室での本の貸し出し年間目標を達成した人が９５％以上になることを目指していく。３学期は、今年度の取組を振り返り、来年度の読書活動がさらに充実するよう計画を立てる。</p>

添付資料

◆本への興味関心を広げる図書館環境の整備

①環境整備



↑季節ごとに児童の興味を引く飾りを掲示し、楽しい雰囲気作りをしている。

今年度新しく増設した記念文庫↑



←目でわかる表示を設置することで、本を探しやすく、整理しやすい環境を整えている。また、学校行事や季節のイベントにちなんだ本のコーナーも数多く設置し、児童の読書の幅を広げることができた。

②読書ルーム



↑読書ルームには、机椅子に加えて座敷コーナーもあり、くつろいで本を読む環境が整っている。様々な本も置いてあり、いつでも本を手にすることができる。国語・社会科などの調べ学習で利用したり、読書と関連した言語活動で作成した作品を展示したりと多岐にわたって活用している。

③掲示コーナー



←児童が図書室に足を運ぶ仕掛けとして、「大阪万博」開催に関連付けたクイズコーナーや世界の国について知識を広げるコーナーを設置。ミャクミャククイズは大変人気で、来館者数の増加に繋がった。

◆読書活動を充実させるための取り組み

①読書ノートの活用の推進



↑児童が読書ノートに記入している様子。習慣となっている児童が増え、効果を実感している。



←全職員で読書ノートの活用を推進していくために、資料を作成し、共通理解の場を設けたことで、一貫した指導に繋がった。



↑ノートを書き終えた児童には、図書館前の廊下に名前を掲示したり、表彰したりして、自己肯定感の向上を図った。

↑読書ノートコーナーを新設し、児童が主体的にノートの活用を楽しむことができるようにしている。

↑お手本となるノートを掲示したことで、児童の選書の助けとなったり、表現方法の工夫を高めたりすることに繋がっている。

②北っこにじいろ50選



↑にじいろ50選の一覧表。読んだ本は、3段階評価し、担任にチェックしてもらおうシステムになっている。



↑10冊読み終わるたびに図書室でくじ引きができる仕組みになっている。もう一冊貸し出し券、手作りしおり、ノート等がもらえたり、ガチャガチャが引けたりと児童は楽しみながら50冊を読み進めている。

③北っこどくしょの木



↑100冊、200冊、300冊ごとの花や実がなる仕掛けになっている。3月には満開となるよう活動を推進していきたい。



↑表彰の様子。50選を達成した児童は、校内放送で紹介され、校長より賞状と記念品を授与される



↑50選達成者。毎年恒例となっており、写真が貼られることを目標にして取り組んでいる児童も多い。

④読書活動の啓発



↑定期的に Teams を活用して、読書活動の啓発や達成状況等を紹介し、児童の意欲を高めた。

⑤本を活用した講話



←講話で活用した本は、図書館でも紹介し、選書の幅が広がるよう工夫した。

◆児童が主体的に取り組む図書委員会活動

①おすすめの本の紹介



↑定期的に図書委員会の児童が自分のおすすめの本の紹介カードを作成し、本と一緒に掲示している。友達を紹介する本に興味を示す児童が多く、新しい本との出会いを楽しんでいる。

②委員会の掲示板



↑委員会の活動の様子やイベントの情報を職員室横の掲示板を活用して、積極的に宣伝した。また、給食時には、イベントの紹介に加えて、読書活動を啓発する内容の放送を行い、読書活動の推進を積極的に行っている。

③児童集会



↑リモート形式で児童集会を行っている様子。全校児童に「図書館に行きたい!」「本を読みたい!」と思ってもらうために、自分たちで楽しいクイズを考えて発表したり、イベントを紹介したりした。

④図書館祭り

6月と11月に図書委員の児童が主体的となって企画・運営を行った。



↑事前に図書館祭りのチラシを全学級や校内掲示板上に掲示したり、内容を放送したりして、児童の興味関心を高める工夫を行った。図書委員会主体のイベントに加えて、スタンプラリーも行い、図書館利用の促進も図った。



←校長先生による読み聞かせの様子。読み聞かせした本は図書館にコーナーを作り、児童の興味関心を広げるようにした。



↑図書委員会の児童が中心となってイベントを行っている様子。今年度もさまざまな楽しいイベントを企画したことで、期間中はたくさんの児童が図書館を訪れ、大変賑わった。また児童が主体的に活動できたことで、達成感も高く、充実感を味わわせることにも繋がった。今後の活動にも意欲を見せている。

◆家庭や地域との連携した取り組み ①読み聞かせボランティアによる読み聞かせ



昼休み



朝の時間

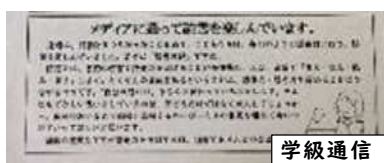


←読み聞かせボランティア「お話オルゴール」の方によるお話会の様子。今年度は、継続して「昼読み会」へ参加する児童を増やす仕掛けとしてスタンプラリーを導入した。

②家庭や地域へ読書活動の啓発



↑→今年度は、図書館だけでなく、学校だよりや学級通信等でも読書活動の啓発を行い、家庭や地域への協力をお願いすることができた。



学級通信



学校だより

③佐賀市立図書館・分館の諸富館とのコラボ企画



←Teamsを活用して、給食時に新諸富館の様子やイベントの紹介をしている様子。イベントには、本校の児童が多数参加し、諸富館の存在を周知させることに繋がった。

④佐賀市電子図書館システム使用方法ガイド



←本校の児童は電子図書館システムの利用が少ないという実態を受け、使用方法ガイドを作成し、4～6年生に配布して、指導を行った。来年度は、最初のオリエンテーションで紹介を行いたい。

⑤諸富給食センターとのコラボ企画

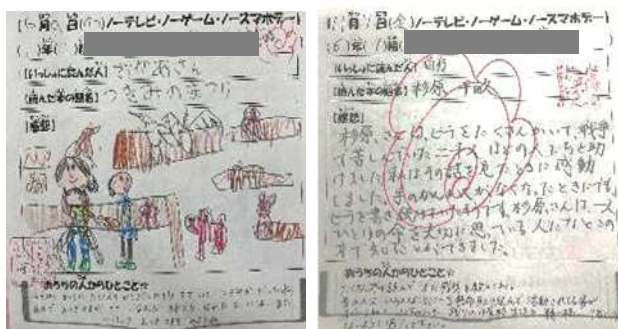


↑今年度初めてコラボ給食を2回実施することができた。児童がコラボする絵本への興味を高めるために、特設コーナーを作りたくさんの児童が本を手にとることができるよう工夫した。またクイズ企画も実施したことで、図書館来館者も増やすことができた。



↑コラボしたメニューは、大変好評だったため、12月に1回。3学期も継続していくことになった。

⑥親子読書「ばかばか読書」



↑児童が書いたワークシート。毎月、親子で本を読んだり、兄弟で読み聞かせを行ったり、感想を伝え合ったりと様々な形で交流を深め、読書時間を楽しんでいる。